

国重要文化財旧ハッサム住宅

旧ハッサム住宅は、インド系イギリス人貿易商K.ハッサム氏の自邸として建てられ、明治35年に新築届けが提出されています。設計者はイギリス人建築家Alex. N. ハンセルと推定されています。

かつては中央区北野町2丁目の高台（現ラインの館北側）にありました。昭和36年に当時の所有者であった神戸回教寺院から神戸市が寄贈を受け、昭和38年、現在の場所に移築保存され、神戸における近代洋風建築保存の先駆けとなりました。

建物は木造2階建、寄棟造棧瓦葺で、屋根には化粧レンガ積みの煙突を立ちあげています。南側に設けられたベランダは、1階をアーケード式（アーチを連ねた形）、2階をコロネード式（列柱式）とし、2階ベランダ柱頭部にはアカンサスの葉をかたどった柱頭飾りが付いています。外壁の下見板張りオイルペイント塗り、ベイウインドウ（張り出し窓）、よろい戸とペディメント（切妻のこと）、壁と天井の境界に施された蛇腹と呼ばれる飾りなど、明治時代に建てられた神戸の異人館の特徴をよく伝えています。

内部は玄関を入って中央部に、階段を含む小ホールと廊下があり、左右に部屋がある中央廊下型式の間取りをとっています。1階は、応接室、居間、食堂など接客を兼ねた機能を持ち、2階は、寝室、浴室などを設け、家族の生活の場であったことがわかります。また、厨房や使用人室は別棟に設けられており、当時の生活が伺えるとともに、家族のプライバシーを重視した生活であったことがわかります。

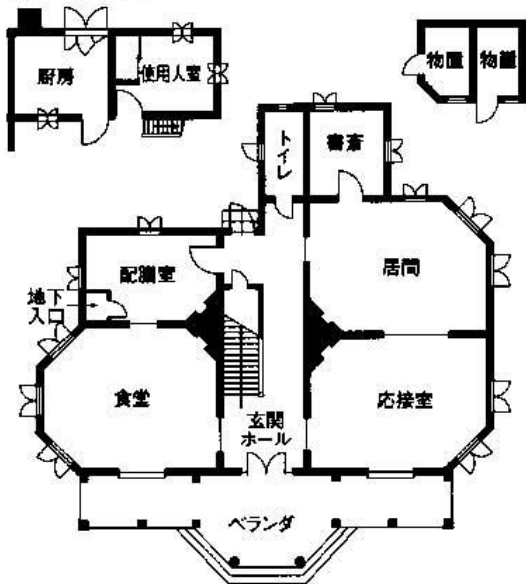
なお、前庭の2本のガス灯は、明治7年頃旧外国人居留地に建てられていたもので、わが国でも非常に早い時期の街灯用ガス灯です。現在は電灯に改造されています。

阪神・淡路大震災では、主屋は壁の各所に剥落や亀裂を生じ、レンガ積みの煙突は室内に落下し、屋根や天井、床が破損しました。復旧工事では、煙突や天井と床の補修や塗装を行いました。配膳室に落下した煙突は、取り出し、震災の記憶を後世にとどめるため、前庭に展示しています。

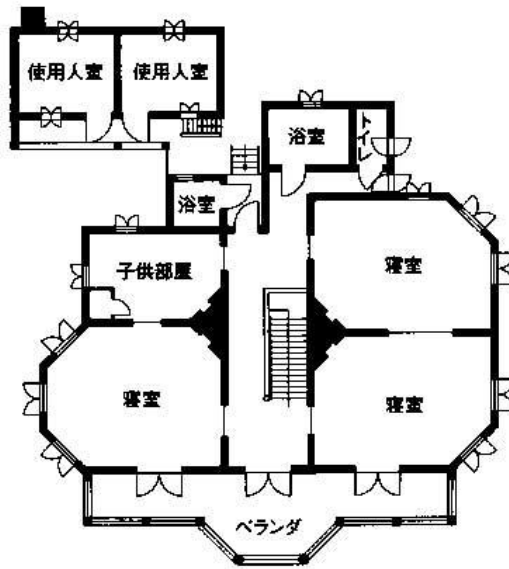


平成19年度から1年余りをかけて行った修理では、傷みの激しかった屋根の葺き替えとともに、天井の漆喰の塗り替え、外部塗装、窓やドアの歪みの調整などを行いました。深い緑の塗料は、外壁に使われた塗料の調査で判明した建築当初の色を再現しています。

1階 平面図



2階 平面図



建築主	K・ハッサム	
所在地	神戸市中央区中山手通 5-3-1(相楽園内)	
構造規模	木造2階建、寄棟造、棧瓦葺	
	1階	173.61m ²
	2階	179.73m ²
	地下室	5.42m ²
	附属屋	29.18m ²
	倉庫	9.64m ²
	計	397.58m ²
建築年代	(創建)明治35年 新築届提出 神戸市中央区北野町2丁目33番地 (移築)昭和38年 相楽園内に移築	
所有者	神戸市	



ベランダ柱材の補修



蛇腹型引き作業

旧ハッサム住宅についてのお問い合わせは、神戸市教育委員会文化財課まで。